

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2016年11月18日

北海道社会保障推進協議会

Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

介護の日 介護する人も される人もみんな笑顔を 介護・認知症なんでも電話相談とスピーチ&パレード

11月11日「介護の日」、「介護させる人も、する人もみんな笑顔に！道連絡会」は、介護・認知症なんでも電話相談と、街頭宣伝スピーチ&パレードをおこないました。

もう介護が限界

電話相談では、道内各地から17人の相談があり、ケアマネジャーや介護労働相談員などのべ12人が対応しました。

「介護離職したが、認知症がある要介護3の親の介護が限界。でも特養に入れてもらえない」「要支援2の親の退院後の生活が心配」「低年金で医療費もかかるので、末期の夫の葬儀代は心配」などの介護に対する不安が寄せられ、家族介護や生活困窮、必要な介護の提供体制の不十分な実態が示されました。また、「介護制度を利用したいが、どんな制度が受けられるのか、どうしたら利用できるのか」、「現在利用している特養やディサービスなどが希望



通り提供してくれないので、他に方法がないか」などの介護制度を利用についての相談もありました。

一方、家族や本人が認知症ではないか、診断や治療する医療機関への問い合わせも多く、増え続ける認知症に対して診断、治療できる体制が不十分で、その相談先などの周知も不足していることも示されました。

介護制度の充実と職員の処遇改善を

同日夜、仕事帰りのサラリーマンが行き交う札幌駅南口で、「介護に笑顔を！スピーチ&パレード」をおこない、65人の介護職員や関係者がプラカードや横断幕を手に参加しました。

道連絡会共同代表の河原政勝さんは、「介護保険制度は国家的詐欺といわれるほど深刻ですが、さらに改悪されようとしている。



介護報酬が下げられ、職員の給料も下がっている。経営もたちいかず、事業所の倒産も史上最大。怒りを結集して世論に強く改善を訴えよう」と呼びかけました。

リレートークでは介護現場で働く労働者4人が、介護サービス利用者の声や労働者の実態を語りました。

白石区のディサービスで働く介護職員は、「1日に21人の利用者の入浴介助をしなければならない。ゆっくりとお風呂に浸らせてあげたいが、時計を見ながら『のぼせるからそろそろ上がりましょう』と促している。残りの人数を計算して入浴させなければならないのが辛い」と語り、必要な介護に対して国のお金を使ってほしいと訴えました。スピーチ後、市街地を「介護士増やせ」とサウンドデモで道行く市民にアピールしました。

11月26日 国の責任で、医療と介護の充実を求める北海道集会

札幌認知症の人と家族の会の代表をはじめ、特養利用者の家族、ヘルパーや介護労働者などが深刻な介護の実態を告発します。

とき 14時～16時 ところ ニューオータニイン札幌2階（中央区北2西1）